

第46回世話人の集まり 議事録

日時：平成25年6月28日（月）10時～11時半

会場：さわやかホール

参加者：佐々安子、徳元利恵（春日ハウス1）横田梢、西田敬子、浪川順子（春日ハウス2）、瓦林八重子（栄ハウス）、古川喜美子、福岡貴美子（本町ハウス）、釜形保子（かすがハウス）、境栄子、倉持るみ子（サンシャイン）、鶴田喜美江（さざんか）、菅谷文子、椎名かおり、深石正子、花沢純子、伊藤史絵（菜の花ハイツ）、佐久間友香（ヒバリの介護）、土屋晴美（ぴあハウス）、外口春子（ハーモニーハイツ）、宮内康之（マイホーム）、和田明宏、大木敬子（ケアホームいいだか）、神津登茂子（東足洗）、宇井（中川） 以上25名
(順不同・敬称略)

1、開会

2、講演 「防災指導について」

講師 旭市消防本部様 予防課予防班

品村様 飯島様 崎山様

～グループホームの防火対策～

○グループホームとは

- ・障害のある人たちが地域の中で普通の暮らしを営むことを実現する。
- ・最も典型的なグループホームとしては一般住宅を利用した物が多く、その中で専門スタッフの援助を受けながら少人数で生活を行う。
→利用者3名から5名程度に対し、世話人1名という状況が多い。

○グループホーム火災

1 建物の構造

- ・一般住宅を利用していることから、福祉施設とは異なり、木造の建築物が多く、火災発生時の火の回りが早い。
- ・福祉施設とは異なり、消防用設備（スプリンクラーや自動火災報知設備）が設置されていないことから、火災の発見や初期消火が困難な場合が多い。

2 入居者の特性

- ・個々の障害特性等から、火災に対する認識や状況判断、避難行動に支援が必要である。
(火気管理が出来ない・非常時の行動予測が困難・睡眠薬などの服用による覚知の遅れ)

3 火災発生時間

- ・死傷者を出す火災は、ほとんど夜間に発生している。
- ・過去の主な社会福祉施設火災を見ても、1：00～3：00 の時間帯など深夜が多い。
(理由として、睡眠薬などを服用していることから入居者から火災発生の知らせを受けることは困難であること、また、世話人の仮眠している時間でもあるため、火災発見の遅れ・被害の拡大につながるのではとの見解であった。)

4 夜間の職員

- ・職員の仮眠や介護対応等で火災の発見が遅れることから、
「避難誘導で一杯になる」「初期消火、通報が遅れる。出来ない。」
…結果として、入居者全員を避難させることの困難さにつながってしまう。

○グループホームの防火対策

1 火災を起こさないこと

- ・グループホームでは一般住宅と同じ火災危険が存在している。

火災危険の確認

平成 24 年の火災総件数…44,102 件 (1 日 120 件、12 分に 1 件)

このうち建物火災は…25,525 件 (20 分に 1 件)

建物火災の出火原因

1 位…コンロ 15.2%

(調理中は火のそばを離れない。調理の際は立ち会う。)

2 位…たばこ 10.0%

(喫煙場所を決める。灰皿はこまめに掃除。水を入れる。)

3 位…放 火 9.8%

(建物の周りに燃えやすい物は置かないようにする。)

4 位…ストーブ 5.9%

(ストーブのまわりに燃える物を置かない。ストーブの上に洗濯物を干さない。)

5 位…放火の疑い 5.9%

(放火と放火の疑いを足すと 15.9%となり、1 位のコンロの数値を上回る。)

その他…電気器具の確認

(たこ足配線はしない。コンセント周りのこまめな掃除。リコール製品の確認。)

2 素早い初期消火

- ・消火器は初期消火に有効、確実に使えるようにしておく。
 - ・常に消火器が使用できる状態にしておく。
- 「消火器がどこにあるのか・すぐ取り出せる場所にあるか・有効期限の確認
サビや変形、傷がないか確認する」

3 素早い 119 番通報

・平成 25 年より 119 番通報は千葉市にある「ちば消防共同指令センター」で受け付けることになっている。119 番通報の際は、必ず市町村名を伝えるようにする。

・通報内容

「火事か救急か？」

「場所はどこか？（住所・名称）」

「何がどれ位燃えているか？」

「何階建ての何階が燃えているか？」

「けが人や、逃げ遅れはいないか？」

「通報者が安全な場所にいるのか？」

「名前と電話番号」

※一方的に話すのではなく、聞かれていることに対して回答する。

※わからないことは、わからないとはっきり答える。

※住所や電話番号は必ず聞かれる。電話機の近くにわかるように掲示しておく。

4 避難誘導

・避難の優先順位の見極めが重要。

危険性の高い人から非難させる（出火箇所に近い順）

・玄関以外の出入り口の確認。

いざという時の避難口…居室の窓から出るなど。

・近隣住民の協力。

いざという時、支援を受けられるような体制を確保する。

○火よりも怖い煙

・死者の原因は火傷による死者より一酸化炭素中毒や有毒ガスによる死者の方が多い。

・煙は高温の気体で、吸い込むと気管や肺が火傷して呼吸困難を起こす。

○煙の性質

・横方向 毎秒 0.5～1.0 m 程度 人が歩く速さ

・上方向 毎秒 3.0～5.0 m 程度 人が駆け足の速さ

○煙からの避難

火災初期 壁沿いに避難する。

煙が多い時 低い姿勢をとって避難。

階段の避難 段差の「くぼみ」に溜まっている空気を利用して避難。

○訓練 PDCA サイクル

- ・ Plan (計画) : 計画する
- ・ Do (実施・実行) : やってみる
- ・ Check (点検・評価) : 反省・確認
- ・ Act (処置・改善) : 悪いところを見直す

↓

※繰り返す (継続した訓練の実施)

○感想ほか

- ・ 消火器に触る良い機会になった。
- ・ 実際の現場を想定した際、消火を試みることが出来ず、パニックになり、TEL するのが一番になってしまうような気がした。
- ・ 火災の怖さを改めて認識した。
- ・ 防火対策について、自分で気を付けていたつもりだったが、改めて火災の怖さを認識した。
- ・ とても役立つ講演・実技になった。他の世話人にも伝えていこうと思う。
- ・ 良い勉強になった。GH へ戻ったら、消火器を確認してみようと思う。
- ・ ホームの状態と照らし合わせながら話を聞くことが出来た。
- ・ 消火訓練もあまり行なうことがないので良い体験になった。
- ・ 帰ったら担当しているホームを確認したい。
- ・ 大きな火災は全て初期消火に失敗している様子を事例で確認することが出来、改めて難しいものだと感じた。
- ・ グループホームへ帰り、計画を立て訓練したいと思う。
- ・ 数年ぶりに消火器を使った訓練をしたが、いざという時に慌てないために普段からの意識付けが必要だと思った。
- ・ 実際、火事になった時は思っている以上にパニックになってしまう事を知った。
- ・ 火災の実例から、利用者の避難指導をしていない・出来なくなってしまう事を知った。
- ・ 何度も訓練を行うことが大切だと思った。
- ・ 泊まり中に火事があると本当に怖いけど、いざという時のための訓練が大事だと思った。
- ・ 万が一の時、最小限に火を食い止められるようにしたい。
- ・ はじめて消火器を使ってみて良く分かった。
- ・ 初期消火の大切さ、消火器の種類による使い方の違いなど、実践が出来て良かった。
- ・ グループホームでの火災だけでなく、家庭での火災でも気を付けるところなど分かり、とても良かった。
- ・ 今まで以上に火災を起こさない様に気を付けようと思った。
- ・ 参考になった。慌てず行動したいと思った。

- ・防火指導を受け、本当に勉強になった。
- ・パニックにならないようにしたいと思うが、まずは火災を出さないよう、日々、気を付けたい。
- ・とてもタメになり、参加出来て良かった。
- ・自分のホームは古い木造建物なので、良く訓練を行い、気を付けたいと思う。
- ・消火器の練習が出来て良かった。

以上

(文責：海匠ネットワーク 尾形)